

1946年、新制女子大学の前身である8つの専門学校卒業生の有志が集まり、大学婦人協会 (Japanese Association of College Alumnae, JACA) を創立。初代会長は藤田たき氏。「女性の高等教育の向上」、「男女共同参画社会の推進」、「国際協力と世界平和」を目指して活動し、1958年、社団法人化。よりよい社会をつくるための「啓発・提言」活動や未来世代を応援するための「奨学・奨励」事業などを通じて、国際協力の上に平和な世界を実現する「女性リーダー」を育成している。

女性たちからの語り『災害の記憶をつなぐ』を出版

しまだ きみえ
(一社) 大学女性協会 理事 嶋田 君枝

防災対策は世界基準へ

近年、世界各地で災害による被害が増え続けている。日本だけではない。2015年に仙台で開かれた第3回国連防災世界会議の「仙台防災枠組2015-2030」では世界に向け、行政や企業、団体だけでなく市民一人ひとりが防災について学び、考え、行動を起こすことが採択された。

寺田寅彦が説く 語り継ぐことの大切さ・災害に備えることの重要性

災害は忘れた頃にやってくるとは、科学者の寺田寅彦の言葉とされている。寺田は今から90年前、東北太平洋岸をたびたび地震が襲い、甚大な被害をくり返す要因を随筆「津浪と人間」の中で分析。自然現象の地震がくり返されるのは学問的に明らかなのに、防災対策が徹底されず、同様な罹災がくり返されることを憂い「残る唯一の方法は人間がもう少し過去の記録を忘れないように努力するより外はないであろう」という言葉を残した。

災害が忘れた頃にやってくるものなら、防災対策の第一は、「忘れないこと」である。災害に遭った人はその体験の記憶を語り継ぎ、それを聞く人や読む人は、未知の災害への理解を深め、防災への認識を共有し、それぞれの行動に活かすことが重

要となる。これが、『災害の記憶をつなぐ』を企画した動機である。

災害の語り部として、そして提言へ

当協会は全国24支部あり、災害列島日本の各地で起こった災害の体験を広く集めることができると考え、2020年に会員全員から原稿を募集。仙台支部と神戸支部は東日本大震災、阪神淡路大震災の体験を小冊子にしており、その体験談や2015年「災害を語る会」を開催した際の原稿も本に取り込むことにした。ほかにも新潟や熊本の災害の記憶、避難所でボランティアをした経験、女性の視点から見た避難所の実態や問題点、自宅を実際に避難所として提供した会員のインタビュー、災害の歴史に関する見聞も掲載することができた。海外に向けて、2011年アジア大学女性連盟総会や2019年国際大学女性連盟世界大会で日本の震災の体験談や防災について発表したのが、それも収録した。結果、正会員の約1割にあたる70余名の協力を得ることができた。

本書はすでに、本部・支部・会員個人から約100の関係諸機関(内閣府、文部科学省、地方自治体、警察署、消防署、関連女性団体、防災研究をしている大学・高専、研究者など)に献呈している。四谷警察署長からは「東日本大震災のとき、ここの署か



各支部から地方自治体の首長への献呈を積極的に行っている。
写真右は東京都小平市長。

らも大勢が現場に行った。その経験を今の若い年代に伝えるのは難しい。この本はそれを伝える機会になる。警察も女性署員が増え、現場で女性への対応ができる。ぜひ女性署員にも読んでもらい、いろいろと役立てたい」とお話をいただいた。

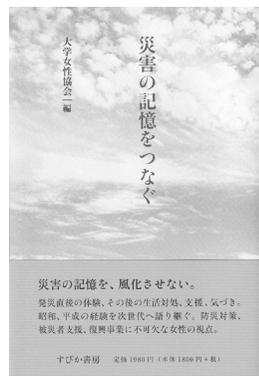
災害時の記憶・記録を残す意味

突然、非日常に放り込まれた発災時の体験やそれに続く生活者としての対処は、人生のひとつコマとして強く記憶に刻まれる。そこには必ず学びがあり活かすべき教訓を伴う。緊急時に必要なこと、防災に役立つ生活の知恵、政治や行政に要請したい提言などは、SDGsの基本理念「誰一人取り残さない」ジェンダー平等の視点で共通している。読者の方々には、本書が女性たちの記録集として編まれたことの意義をそこにお認めいただければ幸いである。

防災にも復興にも、私たち女性が声を上げ、女性がもっともっと計画や施策に参画していく必要がある。あらゆる段階の意思決定の場に、いろいろな立場の女性が入っていくことが大切なことは言うまでもない。今後も機会をとらえて提言し、女性の参画の重要性の啓発に努めていく予定だが、本書が世の中の推進に多少なりとも貢献できることを期待している。



原稿募集のためのチラシ



『災害の記憶をつなぐ』
(ずびか書房, 2023)

詳細は→
こちら



今こんなことやっています！

- 啓発提言
今日の社会が抱える課題から重要なテーマを決め、毎年1回のセミナー／シンポジウムの開催。社会課題に応じた各種調査・研究。
- 賞・奨学金授与
未来を担う若者を応援。
- 国際ネットワーク支援
国連女性の地位委員会や加盟するGWI (Graduate Women International, 本部：ジュネーブ) などの国際会議に参加を希望する学生を送り出している。
- Jカフェ
会員のヒューマンリソース活用プログラム。会員の知識・経験を語ってもらい、生涯学習の一助としている。外部の方も参加可能。

DATA

- 会 長：岩村道子
- 設 立：1946年
- T E L：03-3358-2882
- F A X：03-3358-2889
- H P：https://www.jauw.org
- E-mail：jauw@jauw.org